



福井県

中学校長会の窓

発行 福井県中学校長会
編集 福井県中学校長会広報部
印刷 宮田 写植印刷

福井市春日1丁目7-4
TEL (0776)35-3865

第 135 号

平成30年 2月15日発行

平成29年度

福井県中学校長研修会

平成29年11月16日(木) ホテルフジタ福井

会長挨拶



福井県中学校長会

会長 川上啓一郎

本日は、平成二十九年度福井県中学校長研修会を開催するにあたり、公務ご多用の中、県教育委員会教育長 東村健治様、企画幹 淵本幸嗣様のご臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

後ほど、ご挨拶、ご指導をよろしくお願いいたします。

また、各校長先生方には、お忙しい中ご出席をいただき感謝申し上げますとともに、各専門部会、中教研、中体連など、校長会の諸活動にご理解、ご協力をい

ただいておりますことに深く感謝申し上げます。

さて、三月十四日に発生しました池田中学校の事件について、事故調査委員会より報告書が提出され、十月十七日には県教委主催による校長等研修も開催されました。子どもを育てることを使命としている教育現場で、決して起こってはならない事件が本県の中学校で発生したことに対し、大きな衝撃を受けたと同時に、亡くなられた生徒並びにご家族の皆様にご哀悼の意を表したいと思っております。今回の事件を重く受け止め、自らの学校に発生した重大事として捉え、今後このような事件が二度と起こらないように、それぞれの学校におかれましても、県並びに市町教育委員会のご指導を仰ぎながら、校長先生方のリーダーシップのもと、子どもへの指導体制について今一度確認し、全教職員で共通理解を図っていただきたいと思います。

この後行われる研修会では、愛媛大学大学院教育学研究科の露口健司教授をお迎えして、「学校組織における危機管理とリーダーシップ」という演題でご講

演をいただきます。今回のような事案が起こらないようにリスクマネジメントやクライシスマネジメント、また、校長としてのリーダーシップについてもお話を伺えることと思っております。

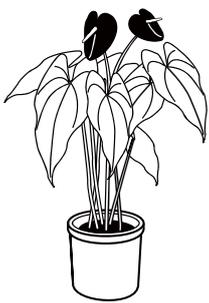
また、講演の後に、小グループに分かれてグループ協議を予定しております。今回の事案やいじめの未然防止など、日頃自校で取り組んでおられることや今回の事件を受けて取り組んだこと、また、本日の講演から学んだことなどを意見交換し、明日からの学校経営に生かしていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

話は変わりますが、七月には、東海北陸中学校長会研究協議会福井大会を、東海北陸七県から九百三十一名の校長先生方の参加をいただき福井市で開催いたしました。平成二十七年十一月に開催された第一回準備委員会から一年九ヶ月という準備期間を経ての開催であり、川上治一実行委員長、各専門部長をはじめとして、七十五名全ての会員の皆様のご協力がなければ開催できなかった大会であり、改めて感謝申し上げます。

本来であれば、それぞれの部会毎に集まって振り返りをしていただき、それぞれの部長からまとめをしていただくところですが、時間の関係もあり、大会参加者からのアンケート結果を含めて、研修会後に川上実行委員長から総評をしていただき、次

年度開催の岐阜県に申し送りをしたいと思っておりますので、ご了解をお願いいたします。

最後になりますが、今年三月に次期学指導要領が告示されました。今回の改定では「社会に開かれた教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」、「主体的・対話的で深い学び」が改定のポイントであり、平成三十三年度完全実施に向けて、各学校において研修等を重ねていることと思っております。また、平成三十一年度完全実施の道徳の教科化、県立高校入試制度改革、多忙化による働き方改革、加えて、日頃より取り組んでおられる生徒指導、不登校、いじめ問題など、中学校を取りまく課題は多岐にわたっています。これらをそれぞれの学校の実態に合わせて、一つ一つ取り組み、解決していくことが、我々校長の使命と考えます。そのためにも、このように県内中学校長が一堂に会して研修し、情報交換することは大変貴重であると思っております。本日の研修会が先生方一人一人にとって、実り多い研修会になりますことを願いまして、開会の挨拶とさせていただきます。本日は、よろしくお願いいたします。



教育長挨拶



福井県教育委員会

教育長 東村健治氏

皆さん、こんにちは。本日は県内七十六校の校長先生方がこのように一同にお集まりいただき、平成二十九年度の福井県中学校長研修会が開催されますことをお喜び申し上げます。また、皆様方には、日頃から本県の教育力向上ならびに子ども達の健全育成にご尽力いただいていることに、敬意を表するとともに感謝申し上げます。何点かお願いもあわせて、お話をさせていただきます。

まず最初に、今、会長様からもお話がありました。今年三月、池田中学校の生徒が亡くなるという事案がございました。尊い命が失われたことにつきまして

は誠に残念なことであり、教育に携わる者として本当に重く受け止めなければならぬと思っております。県では、先ほども話

がありましたけれども、十月十七日に学校事故に係る緊急の研修会を開催いたしました。また、池田中学校の生徒達が安心して本来の授業や学校生活ができませんよう、学習指導や学校管理を支援するために、県から教員あるいは職員を派遣して対応してきたところですが、現在のところ、生徒は落ち着いて学校生活を送っているというふうにかがっています。今後、各学校の教育相談担当教員の研修であるとかスクールカウンセラーの専門性向上に関する研修を行い、こういう問題に取り組んでいきたいと考えています。県と市町の教育委員会、そして何よりも学校、この三者が一体となって再発防止に努めていかなければならないと思っております。各学校におかれましても、校長先生が中心となつて研修の場を設けていただいたとうかがっております。本日も、生徒の変調を学校全体で見逃さないような学校マネジメントについて、この場で皆さんで検討されると聞いておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。学校は大切な子ども達の命を預かっている場所です。これを強く意識していただいで、すべての職員の危機管

理意識を高めながら、チームで対応する体制づくりを徹底していただきたいと思ひます。

二点目ですが、先月、平成二十八年年度の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果が発表されました。本県の中学校における不登校の生徒は、前年度に比べて十二人増加しており、千人当たりの不登校生徒数は四年連続で増えています。そういったことも、全国では少ない方から五番目というふうな状況です。ただこれを看過することなく真摯に受け止めて、新たな不登校を生まないよう、家庭それから関係機関との連携をより一層図りながら、もちろん小学校との連携が重要だと考えています。通うのが楽しい魅力ある学校づくりを進めていただきたいと考えています。県としても、今まで以上に生徒の状況を積極的に把握し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の外部人材を活用したチームでの対応をより一層充実させ、事態が深刻化する前に学校をサポートする体制づくりを進めていきます。

出ています。各学校におきまして、会議のあり方を見直したり、平日の部活動の休養日を設けるなどの取組をそれぞれ進めていただいているところだとは思ひますが、十五分縮めるのがなかなか大変なことだったと思ひますので、並大抵の努力ではこれに進まないのかなというふうにも考えています。先生方が授業研究をし、生徒と向き合う時間を増やし、教育の質を向上するために、県でも事業のスクラップや報告書等の簡素化について検討させていただきます。学校運営支援員や部活動講師等の配置も拡充していきたいと考えています。これは地域によってもかなり差があるというふうにも聞いています。何よりも管理職の号令がなければ絶対縮まることはありませんので、この点につきましても、本日に校長先生、教頭先生のリーダーシップのもとで働き方改革も合わせて十分にお考えいただきたいと思ひます。

最後に、今日、二日、三日に開催した「福井教育フォーラム」には、県内外から約六百名の参加がありました。七つの学校で公開していただいた授業の質の高さに称賛の声が聞かれるとともに、本県の高い教育力を支える学校経営の充実ぶりに関心が集まっております。私も見させて

いただきましたが、本当に生き生きとした素晴らしい授業が行われているということを感じましたところでは、これまで積み上げてきた実績に自信をもつて、そして検証と見直しを常に行い、まず授業の質の向上、そして本県の中学校教育のさらなる充実・発展に努めていただきたいと考えます。

最後に、本日の研修会が実りあるものになりますよう、併せて、皆様のますますのご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。ご挨拶いたします。



【演題】 学校組織における 危機管理とリーダーシップ

愛媛大学教職大学院
教授 露口健司氏



十二月に愛媛のある中学校にペッパ君を導入します。基本は補習ですが二、三年後にはクラスに入れてT2をと考えています。初年度費用三百四十万円です。顔認識機能がついていて

子ども達の反応・様子を逐次把握できます。確認テストを子どもに出し、四十人の採点を一齐にすることもできます。英語・数学を最初に考えています。不登校傾向の子の補習も担当します。将来的には四百人の宿題のチェックをします。一方でクラス四十人のうち何人の子がやる気があったか、即時フィードバックされます。教員の今日の授業は七十五点という診断もできます。KINPACHIPROジェクトと銘打って、三千万の予算で平成三十年の四月スタートを目指して動いています。このような世界観がそこまで来ています。

危機管理の結論を最初に言うと、問題が大きくなるかどうかの分かれ目は保護者の了解です。事故・事件・事象が起こった時の一歩前の損失契機の対応次第では「損失」につながらないこともあります。迅速な対応によって信頼が高まる場合があります。状況を悪化させる要因への効果的な対応、すなわち、**ハザード（状況悪化要因）コントロール**が大事なのです。私立学校は保護者・教師・子どもを選べますが、公立学校は環境を選べず全てを受け止めます。リスクのコントロールをし、発生しないようにがんばります。事件事故が起きないことは信頼につ

ながります。また事件事故が起きたとしても迅速な対応・丁寧な対応・誠実な対応で信頼関係を築くことができます。リスクの発見から分析まで先生方一人となつてしていきます。**校長はリスクの発見に努める**べきです。学力の未定着もリスクの一要因と考えます。わからないまま上の学年に進むのは人生のリスクです。特に小学校からだと大変。一昔前は一齐に帰して安心・安全を確保するという登下校の優先順位が高かったです。登下校の列に車やイノシシが突っ込むこともあります。放課後子どもクラブ・児童教室ができてセフティーネットの機能を果たしています。重要度と発生率を調べますと、第一に、あまり起こりませんが略取誘拐やわいせつ事件が位置づけられます。第二に、発生率と重要度が高い、いじめ事件、学級崩壊、校内暴力。第三に学校事故、不登校はほとんどの学校で起きていることです。第四は指導力不足の教員、食中毒です。第五は学校事故訴訟、精神性疾患、個人情報保護（愛媛県は総合教育研究センターがシステムを作り、HPを毎日更新の学校が多い。学校の広報のツールとして利用し、顔写真もアップしている。保護者との信頼関係を築くツールでもある。校長が写真を撮って職員が当番制で記事を作成する。HPはリスクもありますがメリッ

トも大きい。情報をしっかりと出せば信頼は高まる。出さないと隠していると認知される）です。クラスの中の人間関係の把握（QUPロット）も大切です。**リスク統制**として一、ネットワークの構築（人脈＋コミュニティネットワーク）が大事で、校長の在校年数の長期化が求められます。（だれも行きたがらない学校に七年間いて学校を変えた。一期四年ぐらいが必要。学力にも影響するという事例を紹介）二、リスク情報の収集として登下校対策や不審者対応があります。三、意志決定基準があると初動に取りかかりやすいです。（首より上のケガは病院。救急車を呼ぶかどうか迷ったら呼ぶ。学校周辺で発生した事故でも担任は病院まで子どもに付き添う）フレーズ作成は、危機管理研修でも取り組んでいます。福岡では学校で決めた十の戒めを職員全員で唱和しています。校長の不祥事を受け、四年間毎月危機管理講習をしている市もあります。四、教職員の組織化をして保護者からの事案に対応します。（事によっては校長が出て行つてという場合もある）五、境界を管理します。（学校と家庭が連携をして学習習慣・生活習慣等を進める。そして地域の方に、学校や家庭でできないことをしてもらおうことを

より進める。小：見守り隊・給食指導・休み時間等、中：部活動支援補助・補習等↓福井型コミュニティスクール）の充実六、人事配置 指導力不足の教員は多忙化の一要因になっています。愛媛では五十五歳の免許更新講習でセカンドキャリア開発とした教員キャリアプランを取り入れていきます。さらに再来年から六十五歳免許更新講習で七十五歳まで教員を続けることに取り組みます。チーム学校スペシャリスト養成をします。（SC、SSW、ICTコーディネーター、サイエンスコーディネーター）三、四年後に大量採用の反動が来ることに備えています。七、メンタルヘルスの問題として、大量採用期以降、九月に辞めてしまう初任者が出現しています。

次に**ハザードコントロール**として一、保護者からの要求や非難に対して、八割のケースで保護者と話せば合意できます。事実解釈の局面で食い違いがあっても方針や具体的方法の提示で合意できるケースもあります。拒否の提示、撤退（学校に行かさない）、訴訟準備に対しては学校が必要・理解・協力の継続を表明します。これでも難しいと紛争に突入していきます。基本は対話で大人の説得が大事です。（校長には権限の及ばない

大人を魅了する・大人を説得する能力が必要で、一言で言う人間力が求められる)二、対応を迅速にすることが必要で学校は一／五百、学級は一／三十でも保護者は一／一です。三、イメージ管理も重要です。広報印象作りが大事で、同じ事象が起きても信頼関係があるとポジティブに解釈してくれますが不信感があると悪いこととして解釈されます。(給食後先生が居眠りした場合、信頼があると「先生は疲れているから」で終わる。不信感があると「先生が勤務中に居眠りとは許さない」となって周りに広がっていく)目に見えない信頼は大きな財産・資本です。(ソーシャルキャピタル)学校のファンが多いと守ってくれます。目に見えない信頼を普段から作っていくことが必要です。四、保護者ネットワークへの配慮として警笛行動が大切です。(学校のことで変な情報が流れているよ」と警笛を鳴らしてくれる保護者がどれだけいるかが重要)ホイッスルブローアーのキープ)五、ストレス連鎖の抑制として一人の指導力不足の教員が出ると校長教頭以下各担当のプラスアルファの業務が起きます。(一人の指導力不足はマイナス一ではなく、マイナス十に値する)(教頭が授業を持つとリスクに弱くなる)六、孤立家庭に対するアプローチについて 学校に対し

てネガティブな感情を持っている方は孤立傾向にあります。(四万件調査)学校・親・地域と関係ができていません。孤立傾向の方がトラブルの原因になる確率がとても高いです。児相や民生委員、精神性疾患があったりして福祉面・医療面とも連携していかなくてはなりません。校長・PTA・教育委員会などチームで対応することが望ましいです。しかし問題解決の九割五分が転校によりです。教育的なアプローチ、医療・福祉・法律(弁護士)・政治的アプローチで対応します。保護者の頭が上がらない人に言ってもらうこともありません。(携帯禁止なのに持ってきた生徒への指導でその保護者の上司から言ってもらう。地元で頭の上から言ってもらってもらう)保護者が不満を伝えるにやっつけた時に受容・説得・納得・感謝の四原則が重要です。保護者に対して極力真摯に向き合うことが大切です。何回か言いに来ていてその反応・改善がないから反動で大きくなるケースが多いです。ネガティブな感情を持っている保護者を包みこみ、説得していったらその感情になって帰っていただきます。精神疾患の場合は顧問弁護士や精神科医に委託し医学的ケアをしていただきます。

リーダーとしてまず、一人で**P機能(パフォーマンス)**と**M機能(メンテナンス)**の両方の側面を持っている方がいいです。明確な目標を持ち、職員の集団の和を作ります。ただし校長がPmの場合は教頭がPmのように二人合わせて**PM**としてもいいです。リーダーシップは一人で発揮するものでもなく、二人以上で発揮してもいいです。(シエアリングリーダーシップ・共有型リーダーシップ)みんなで補い合ってカバーしていきます。(校長・教頭・教務)さらに広げて運営委員会の十人で動かしていきます。pmはリーダーに向きません。ただ校長教頭ともPmだと職員は辛くなります。役割分担・機能分担が大事です。

分散型リーダーシップが広がっています。トップのリーダーシップから組織のリーダーシップのトータル量へ。リーダーシップは校長が発揮するより多くの先生方が発揮するほうが成果があります。カリスマ校長が変えたがいなくなったら元に戻った歴史も繰り返されました。リーダーシップはトップからミドルへ、トップの資質から組織内のリーダーシップのトータル量へという考え方が妥当です。在任期間で学校内にたくさんのリーダーを作ります。ビジョンと人材育成が校長の仕事です。リーダーはモノで動か

事です。リーダーはモノで動かしています。(目標・計画・会議資料・ホームページ・調査データ)校長を中心としたトップマネジメントチームとしてPDC Aサイクルがありますが、**WH DCAサイクル**もあります。マネジメントの起点は個々の先生方の気付きにあります。問題発見をし(What)手立てをみんんで考え(How)実践し(DO)評価し(Check)改善(Act ion)します。(生徒指導は先生方の気付きからスタートする)この二側面でのマネジメントが大切です。

技術的(管理的)リーダーとして計画者、資源の分配者、調整者、監督者、広報担当者、法律家、門番(悪を学校の中に入れない)、分析者(データの活用)などの役割は大切です。そして**シンボリック(文化的)リーダー**として歴史家(校区の歴史)、脚本家(未来を予測)、ビジョンを持った人、シンボルとなる人(学校や地域のシンボル)、詩人、演技者、癒やしを与える人などの役割も大切です。

さらに**変革的リーダー**として魅力あるビジョンを作ります。ビジョンを実現化する戦略を構築し、メンバーに達成できる期待感を与えます。メンバーとのコミュニケーションを通じてより多くの貢献を引き出します。

メンバーにとって理想の役割を演じます(モデリング)。管理職の変革的リーダーシップは天職観を引き出します。教師の仕事のすばらしさに気付くことができます。(生まれ変わってもまた教師)やりがいを持っていきます。教師の情緒的消耗と脱人格化を抑制し、達成感を高めまします。変革的リーダーシップに含まれるビジョンや仕事の意義についての語り、教師の使命感や仕事の意義への気付きを促し、バーンアウト予防に効果を発揮しています。変革的リーダーシップを欠く校長の学校で、教職員は消耗します。未知の課題に挑戦している学校、危機に直面している学校では変革型のリーダーシップが望ましいです。落ち着いた学校では、交流型のリーダーシップが望ましいです。部下とのコミュニケーションでPDCAをしつかり機能させます。最初は交流的リーダーシップが大切です、コミュニケーションを通して教職員を理解することが大切ですそれを踏まえての人事配置と仕事の割り振りをします。有能性の提示や的確な指導助言をしながら信頼の貯金を積みまします。それからビジョンを示し、戦略、対話。そうすると期待を超える成果が得られます。変革型の校長は組織のネットワークの真ん中にいて変革風土を生み出しています。

変革型校長と左団扇校長の違

いは、ビジョンを描く(明確かつ簡潔な関係者が達成したいと思うブランドデザインを描き伝える)に対してビジョンを描かせるです。(ブランドデザインはミドルが作成する)責任を引き受ける(学校で生じた事象数値に対して責任を負う)に対して責任を回避するです。(責任問題が発生しそうな数値が出ることを阻止しようとする)学力データへの関心を持つ(学力等子どもを取り巻くデータに関心を持ち、学校経営に取り組み)に対して年金データへの関心を持つ(年金データに対する関心を持ち、老後の生活設計に熱心に取り組み)です。問題解決ネットワークを活用する(学校における問題解決のためにネットワークを活用する)のに対して政治的ネットワークを活用する(校長会の主要ポストを獲得するためにネットワークをフル活用する)です。積極的な経営姿勢(見たくないものを見ようとする。リスクをとって前進することに意欲的。停滞は後退であり失敗である。どうすればできるかを考える)に対して現状維持の経営姿勢(見たくないものは見ない。しかし危機管理にはものすごく意欲的。停滞は成果である。できないことの理由を考える)です。成果への配慮(教員集団としての成果に最も配慮している。組織的成果の最

大化)に対して負担への配慮(教員の負担に配慮と言いつつ実は自分の負担に最も配慮している)です。(左団扇ミドルが育つこともあり)

コミュニティリーダー論も登場

場しています。地域で見える存在となり、地域を擁護し学校と地域との信頼関係を醸成します。地域のつながりを作っていくリーダーです。学校を核とした地域の活性化には、つながりの再構築が必要です。(親同士のつながり)学校管理職は地域創(再生)のキーパーソン。

社会正義(ソーシャルジャスティス)のリーダーシップが米国でここ十年間で大ブームで

す。社会的不平等の再生産の抑止です。経済的に困難な家庭や子どもをどうまわりとつないでいくかが校長のリーダーシップのポイントです。学力と幸福がアメリカの校長の二大使命になっています。(アカデミックサクセスとウェルビーイングの実現)学力をあげることが子どもを幸せにすることが使命です。幸福の研究(子どもの幸福、教師の幸福、親の幸福)を進めています。

次にサーバントリーダーで

す。(奉仕貢献型のリーダー、上からの指示命令ではなく下から支えるリーダー)子ども・保護

者・職員に奉仕貢献しようとし、彼(女)らのために何ができるかを常に考え進んで行動するリーダーです。一方**デビルリーダー**(ある地位に就いた途端に取り憑かれたように不可解かつ非生産的な行動を繰り返し、組織あるいはメンバーに害を与えるようなリーダー)があります。

ちがいは愛他的使命(部下や顧客の利益を常に本人の利益よりも優先している。部下に責任を持たせる。自己犠牲)に対して、利己主義(自分の利益を最優先させる。無謬意識が強く失敗を人のせいにする。部下に責任を負わせる)です。情緒的安定(メンバーの精神的不安を未然に取り除き相談に対するコメントが示唆的。組織に安心感を醸し出す。人がしたくない仕事を引き受ける)に対して情緒不安定(リーダーの存在がメンバーのストレスとなり組織にストレスや不安感を充満させる。相談に行くことやめておけばよかったと後悔する)になります。

賢明さ(現実を大局的に把握し多様な危機に対して油断なく配慮している。部下の話を傾聴する。実るほど頭を垂れる稲穂かな。説得力の中に人間的な魅力や道徳的な経緯で部下を動かす)に対して硬直性(些細な出来事に関心を持ちそれにこだわる。思考が硬直的で部下の話に耳を傾けない。うまくいかないとすぐに感情的になる。強制

し自分の意思を経験や力によって実現する)です。組織的貢献(学校や教師が社会に貢献する可能性を示す。学校や教師に希望と可能性をもたらす)に対して組織私物化(学校は自分のストップアップのための道具。学校に絶望感をもたらす)です。

ケアリングリーダーシップも出てきています。看護の現場から提唱されています。リーダーシップ論は軍事の組織で生まれ企業の世界で育ち学校やその他の場で活用されます。軍事組織はリーダーが失敗するとみんなが死にます。命がかかっています。企業組織はみんなが飢えま

す。学校という世界はトップが失敗するとみんなが不幸になります。看護の世界において昨年アメリカで言われました。配慮とか共感反応に基づく動機づけ(この子を何とかしてやりたい)を広げていきます。状況依存症、熟達性、信頼性からのリーダーシップでみんなを引きつけて学校をまとめます。

最後は**ウェルビーイングリーダーシップ**(幸せのリーダーシップ)です。幸せは伝播していきます。「校長が幸せだと先生が幸せ。先生が幸せだと子ども達が幸せ」こんな特徴があります。感謝の気持ちを表しましょう。(言った自分が幸せ)楽観的になりましょう。(計画

は悲観的に、行動は楽観的に)他者と比較しません。(隣の芝生の青さを喜ぶ)親切に接しましょう。(自分が幸せ)人間関係を育てます。(対話の時間、スキャンシップ、コミュニケーション)ストレスの抵抗力を持ちます。(ストレスは人生において必要不可欠)人を許しましょう。(憎悪の感情を取り除き寛大と慈愛の感情を取り込む)熱中できる活動を増やしましょう。(天職としての職業観、集中・没頭(フロー)経験、享樂的幸福(給食や友達との遊び)と成長的幸福(勉強、授業)喜びを深く味わいます。(楽しかった思い出話 目標達成に全力を尽くします。(幸福は目標を追い求めることから生まれる。達成から生まれるものではない)運動しましょう。(協調して行う運動が望ましい)笑いましょう、笑顔で過(こ)しましょう。(日頃からこやかなリーダーは周りを幸せにしていく)このリーダーシップはできたもので

す。

以上で終わります。ありがとうございました。



校長三昧



学校づくりは青天井

明倫中学校長 小木一良



教員のキャリアは、学校経営に収束する。まず部活指導、教科指導等に

始まり、次第に学年、学校、市、県、全国へと、年齢と共に活動範囲は広がる。また、管理や経営の責任は重く質的にも大きく変化する。

若い頃は最前線で指導をしていた。出口の見えない問題行動の対応ばかりであった。それが、いつしか対処療法から未然防止の指導に、家庭や地域へと教育のフィールドも広がっていた。管理職になってからは、目の前の生徒を良くしようとすれば、学校全体が、そして福井の教育が良くなければならぬという思いで、学校経営をするようになった。

生徒に向き合い最善を尽くしていくうちに、良き先輩や同僚にも恵まれ、教員としても成長することができた。学校づくりも、やればやるほど新たな課題や目標がエンドレスにできてくる。今は、そのいろいろな経験を経て身についた知恵をもって、お世話になった教育界に貢献できたらと考えている。

出会った人全てが師

光陽中学校長 川上啓一郎



昭和五十五年四月に、新採用として、当時の坂井郡三国町加戸小学校

に赴任しました。当時は、大量採用の時代で、その年も三百名を超える教職員が採用されました。当時の新採用担当の指導主事から「君たちは採用された以上、一人前の教師として扱われます。何も聞かなければ、全て理解されているものとして進んでいきます。わからないことは、自分から積極的に聞くことが大切ですし、周りの諸先輩方の指導を観察し自分なりに工夫することが大切です。」という話を研修の度に聞かされたことが今でも頭の片隅に残っています。

あれから三十八年。悩んだり、壁にぶつかった時には、当時の指導主事の言葉を思い出し、同僚や先輩方にお聞きしたり、いろいろな先生方の指導法を参考に自分なりにアレンジして指導に生かしてきました。生徒たちに教えられることも多々ありました。

周りの人たちに教え助けられ今の自分があると思うと同時に、これまで出会って導いてくださった全ての人に感謝したいと思います。ありがとございます。



感謝

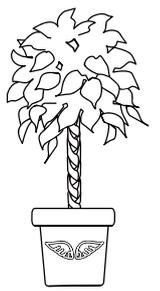
明道中学校長 岡本靖典



永い教員生活を終えようとしています。振り返れば、全国の学校が荒れていた時代に、千人規模の中学校に採用され、不得手な野球部担当でスタートした教員生活で選手たちがついてきてくれ、地域の後援会など多くの方々に支えていただき、思いがけぬ戦績を残しました。

その後も、多くの先輩や同僚に支えられながら、教科、部活動、生徒会担当などに専念することが出来ました。特に心に遺るのは、「荒れ」に対して生徒会からの校歌を大きな声で歌う活動、縦割りを取り入れた生徒主体の自治活動、僻地校での地域活性化を願う生徒の活動です。現在の明道中でも生徒会の目標(目指す生徒像)「伝統明道あいうえお」を常に確認し引継ぎながら自らを高めようとしています。このように生徒たちはいろいろな場面で自分たちの可能性を信じ自らを高めようと考えていたように思います。

これと言って取り柄がない私ですが、前述のように生徒たちに恵まれ、素晴らしい先輩や同僚、保護者、地域の方々に支えられ、教員生活を終えることができることに、心から感謝する次第です。



もう三十八年

進明中学校長 松田新一



教員生活三十八年間で、とわずかで過ぎようとしていっている。まだまだ半人前なのに。

- ・ギャングエイジに翻弄された新採用時代
- ・校内暴力の中にも人なつっこさを見た初の中学校勤務
- ・英語でのディスカッションに発奮した教科会
- ・「英語は苦手やけど、まったしん(松田新)の授業はおもっしえーわ。」の声に励まされた授業の日々
- ・全国大会の研究授業の大舞台でも冗談を言い合う生徒たち
- ・早く授業に行かないか、と思いつけた行政勤務
- ・担任させてほしいとの無理が叶った最後一年間の担任
- ・昔の教え子を家庭訪問しまくった教頭時代
- ・毎朝、生徒たちと交わす挨拶にほっとする校長生活
- ・お金では絶対買えない、大きな大きな「宝物」をいただいた教員人生

最後に、よき仲間、よき友人、よきライバルであった、二宮秀夫君と二人で校長をしている気持ちで毎日過ごしながら、三十八年間で締めくくりたいと思っています。



自分の「芯」を求めて

灯明寺中学校長 酒井長司



新採用教員として生徒の前に立ったのが三十八年前。退職の日の来ることなど、みじんも思いもしなかった。そして今、その日を迎えようとしている。

振り返って思い出すことは、いろいろな人に迷惑をかけたことや、いろんな人に助けられたり支えられたりしたことばかりである。今、自分がこうしてあるのは、これまで出会った多くの人たちのおかげであり、ただただ感謝である。

この二年間、中学校長会で大切な役割を担わせていただいた。心がけたことは、決まったことの情報共有ではなく、決めていく方向性について広く意見を求め総意の中で物事を進めること。

新採用の地で、ある方から、「おまえには芯がない。」と言われてしまった教員人生。三十八年間、このことが頭から離れた日はなかった。果たして私の芯は何なのか、教員人生の終点を迎えながら、自分で答えることが見つからない。退職の日を一つの通過点として、これからも自分の芯を探し求めたい。

感謝

藤島中学校長 田行史子



中学校でバスケットボールの指導をしたと教師になつた私。当然一番の思い出は部活動ですが、

子育てとの両立に苦しんだ結果、小学校での勤務も経験できませんでした。小一から中三まで全ての学年で授業をし、九年間の子どもたちの成長に直接関わられたことは、自分の教員生活の宝だと思っています。小一の体育の授業で、「もう飽きちゃったよ」、「もうやりたくない」と笑顔でだめ出しをされ途方に暮れたこと、授業の十分な準備ととき細やかさが毎日要求されることなど、小学校で学んだことは数えきれません。この経験は、後の中学校での勤務はもちろん、教育行政・管理職としての自分の立ち位置を明確にしてくれました。

管理職としては、保護者や地域との絆づくりに魅力を感じました。教諭・教頭・校長として勤務した最後の藤島中学校では、開校当時から続く学校への地域の願いや溢れんばかりの愛情を継承し、未来に繋げることが私の役目だったと思っています。

これまでお世話になった先生方、たくさんのご感動と笑顔をくれた子どもたちに感謝するばかりです。本当にありがとうございます。

全中大会への思い

大東中学校長 瀧口正之



教員を目指した大きな目的の一つは、全中大会(剣道)に出場して上位入賞をすることでした。最初の

中学校では、経験者もおらず、必死にならざるを得ない状況でした。勝負は甘いものではなく、福井地区の大会でも簡単には勝つことができず、苦しい毎日の連続でした。

約十年かかって全中出場を果たした時の喜びは生涯忘れることができません。しかし、まだ、志半ばであり目標は全中上位入賞です。目的を果たすために、捨て身で取り組み、強いチームを作るための工夫研究に日夜没頭しました。ようやく、平成四年の全中で、大東中が男女アベック三位に入賞した時の喜びは格別でした。厳しい練習にくじけることなく互いに切磋琢磨する生徒たちの姿から、教師として大切なことを多く学びました。

その後、行政や小学校の勤務になったりして、長い間部活動から離れることになりましたが、部活動に必死で取り組んだ経験は、その後の教員生活に大いに生かされました。また、最後の三年間を思い出多い大東中の校長として勤務できたことは最高の幸せでした。

縁

足羽中学校長 今川恒弘



三十八年前、最初に赴任したのが大野市の阪谷小学校でした。以後

福井市に戻り日新小学校、順化小学校、中藤小学校で勤務しました。生涯、小学校で勤務すると思っていたところ、突然、中学校への異動になりました。特に、明倫中は自分の母校ということもあり、懐かしさを感じながらの日々でした。

そして、管理職になり、最後の勤務校が縁あって現在住んでいる校区の足羽中学校でした。子どもが三人もお世話になったにもかかわらず、校歌を聞いたのは赴任したときの入学式が最初でした。

校長室に、一枚の色紙が掲げられています。「念ずれば花開く」という言葉です。これから、校長先生方には様々な困難があるかもしれませんが、子どもたちの笑顔のために、強い信念を持って学校経営にあたりたいと思っています。



清水中学校長 川上治一

人生の岐路で教職を選んだ、今がありま

初から教職に就こうと思っていたわけではありませんが、先生にだけではないと思っていました。それは、父が教員で、(父の姿を見てではなく)「先生の子どもはかわいそうだ、自分の子どもには同じ思いをさせたくない」と、小学校一・二年生のときの思いからです。笑えるかもしれないが、本当です。

それから約十年、大学受験も迫ってきた高三の冬近く、理学部・工学部を目指していたとき、「研究室や工場の中で一生過ごすことになつていいの？もつと人間的な職業が良いのではないか」と思

います。順風満帆であったはずが、初任校松陵中での先輩の公私にわたる温かく熱心なご指導、M中とF中での私の言葉を救ってくださった保護者の方の言葉は未だに記憶の中に。多くのことを忘れず、これからは生きていきたいと思っています。

自分自身が成長した教員生活

上志比中学校長 桑原さとみ



新採用として勤務した学校では「体育」二校目で「勤

放課後、同僚と鍼を持って慣れない畑仕事に汗を流した。三校目で「人権・同和教育」。学級で起きたいじめ問題に真剣に取り組んだ。文部省(当時)の指定校に連続勤務だった。教員としての基本を、この三校で身に付けたと言っても過言ではない。この間、「働いている」という意識がなく、すこぶる楽しく充実した教員生活を過ごすことができた。

それから、「教育とは人づくり」をモットーに、正面から児童生徒に向き合った。生徒の心の変化を感じた時、授業中自分の思い通りに児童が食いついた時の喜びは今でも忘れられない。

りがとうございます」と心から感謝する。

教員としての一生の宝 芦原中学校長 高橋茂樹



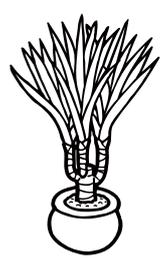
あつという間の教員生活三十八年の中で、特に思い出として残るのは

は、やはり芦原中学校長としての三年間です。

昔から生徒指導面では難しいと言われてきた本校の校長として赴任するにあたり、学校経営目標を「二人一人にとって居場所のある、居心地の良い学校づくり」と掲げました。生徒集会の講話では、日常生活の中で体験した「ちよつと嬉しい話」を必ず入れながら他を思いやる気持ちを育てました。

そんな中、昨年の夏休み中に福井にお住まいの八十歳のおばあちゃんから私宛に手紙が届きました。内容は、本校の男子生徒三名の善行に対する感謝・お礼でした。私は夏休み後の集会でこの手紙を読み、「この手紙の中の男子生徒は誰ですか？立つてください。」と問いかけたところ、三名の生徒が立つてくれました。その時私は、「これは自分にとって一生の宝となるな」と思いました。

最後になりましたが、私を支えてくださった皆様に感謝申し上げます。



おかげさまで

金津中学校長 北川 慎司



「先生、お帰りなさい。」三年前、本校に第十八代として赴任した時、保

護者の方々から声をかけていただきました。教諭として、教頭としてお世話になった本校で教員生活を終えられることに感謝の気持ちで一杯です。

「先生のやり方に賛同してくれ保護者は、半分だよ。」意気揚々と新採用で赴いた学校での学年主任からの言葉です。「それじゃ、全員が賛同してくれるよう、がんばる。」あれから三十八年、目の前の子と接し、果たして「全員」まで届いたのだろうか。

「この道より我を生かす道なし。この道を歩く。」自分なりに道を求めて歩き続けてきました。

これまで出会った諸先輩方や同僚、子どもたち、保護者や多くの方々、そして好き勝手をさせてくれた家族に心から感謝します。おかげさまで、先生の先生からの卒業を迎えます。

出会いに感謝

丸岡中学校長 黒川 秀幸



「先生、三月で定年でしよう。三月、四月はいつ空いていますか？」

同窓会のことです。」

先日、中学校勤務時代の教え子から久しぶりに電話が入りました。二年ほど前にも同窓会を開いてく

れました。当時の指導を思い返すと恥ずかしい思いでいっぱい、こんな私の定年をしつかり覚えていてくれたこと、声をかけてくれたことに申し訳なく、かたじけない気持ちでいっぱいになりました。教員生活も残りわずかになりましたが、日々の勤めに定年はまだピンときません。

しかし振り返ってみればこの三十八年間、小、中、行政等の勤務を通して、先輩や同僚、保護者等に支えられ、教えられ、また園児や児童生徒からもたくさんのお付きや学びを得ました。さらに「人生では困難な方を選び」というように、特に研究指定や大きな大会を担当したり、管理職等を務めたりしたことにより、教師としても人としても成長させていただけました。駆け出しの頃と比べると教師像、指導観もずいぶん変容したと思います。

今は、これまでのたくさんの人との出会いに、ただただ感謝するばかりです。

今想うこと

春江中学校長 佐藤 裕一



教員子から一本の電話がありました。

「先生退職祝いの会をするので都合の良い日はいつですか。」「後一年あるんだけど。」そんな出来事がありました。後一年で退職だなと意識したのを覚えています。最初の赴任地は池田町立池田第一小学校でした。現在は第三小学校と統合し、池田小学校になっていますが、日曜日なども子どもたちと夏は川遊び、冬はスキーとい

うようにいっしょに遊んだりしました。当時は教職員の寮があり、食事などもありたりして、今想うと楽しい共同生活でした。それから三つの小中学校で勤務しましたが、特に坂井中学校では担任・進学主任・生徒指導主事・教務主任・教頭を経験させていただき、自分なりに成長できたかなと思っています。

校長としては、福井県視聴覚教育研究大会、バスケットボール競技の北信越福井大会・全中福井大会、そして日々の学校経営と本校教職員を含めたくさんの方々のお力をお借りしました。全ての方々に感謝申し上げます。

先生かっこいいね！

陽明中学校長 久保 俊岳



私は一人の女の子にずっと感謝して来ました。福井市で七年間を

過ごし、大野市に戻って来たのは三十歳の頃でした。そして、開成中学校で二年生を担任しました。ある時、一人の女子生徒が私の顔を覗き込みながら、こんなことを言うのです。「先生の性格、かっこいいね！」その子が何を指してそう言ってくれたのかは教えてくれませんでしたので、私の中では今でも謎のままです。その子、いやその人は、現在は神戸市に住んでいるそうです。いつの日かお会いして一言お礼を言いたいと思っっています。

彼女は忘れていて、私がその一言が私の教員人生を支えてくれたと言っても過言ではありません。今でもその時の彼女の顔を

はつきりと覚えています。それ以来、私はかっこいい教師になろう、かっこいい大人になろうと、かっこいい自分を追い求めて来たように思います。あの時の彼女の心に、私はどれほど子どもたちの心に灯をともすことができたのだろうか。自問しつつ、自分づくりの道は続きます。

皆様へ感謝！

勝山南部中学校長 鰐 茂



退職が迫り、今思い出されることは、先生方、生徒たち、保護者や地域

の方々との関わりです。新採用の頃、中学校は全国的に荒れており、先生方が生徒指導の問題で夜遅くまで仕事をされていた光景が思い出されます。特に、学年主任や生徒指導の先生方は指導の難しい生徒やなかなか理解してもらえない保護者と時間をかけて向き合っておられました。そのような姿から、指導方法や保護者や生徒との関わり方を学びました。また、忙しい中アドバイスをくださった先生方のおかげで教師として踏み出すことができました。

地元中学校に戻り担任・体育主任・中体連・部活動等の仕事に携わり、教育委員会では社会体育を通して人との関わりを学びました。様々な世代の方々から勝山の教育を学び教員として生活することができました。苦しい経験も数多くありましたが、今になるとどれも良い思い出です。そして今があるのは、周りの皆さんに助けられてきたからだと思感させられます。今後とも関わってくれた

方々への感謝の気持ちを忘れずに第二の人生をスタートさせたいと思っっています。

感謝とともに

中央中学校長 柴田 直昌



退職なんて遙か先のことと思っっていた新採用教員の時が思い出さ

れます。当時の丸岡中学校は県下一の大規模校で、理科の教員は自分を含めて八人。理科教官室はとも賑わっていました。先輩方から教科指導や生徒のこと、学校内外のことなど本当によく教えていただくことができました。

また、当時の坂井郡内六中学校の理科部会の交流もとても活発で、初任一年目が終わる頃には、郡内中学校の殆どの理科の先生方と親しくさせていただき、教科のことはもちろん雑談の中で多くのことを教わりました。

特に、自分は地学や生物のフィールドワークに興味がなく学生時代に避けてきたことを現場に出て痛烈に後悔していました。この部会では専門に通じておられる先生が講師となって研修会を設け、部員のレベルアップを図っていたという先輩方の心意気のおかげで、その後の自分が理科教員としてやっていける素地をつくっていただいたと感謝しています。

多くの刺激が財産となったこの頃を思い、自分はこれら先輩方の意思を継いで努力してきたのかどうか……甚だ疑問です。

お世話になりました

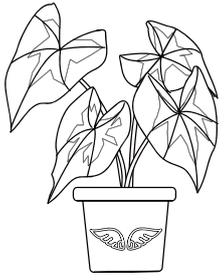
気比中学校長 吉田 昌幸



小学校教諭
八年間、中学校
教諭九年間、行
政職として十
年間、教頭職を

含め管理職として十年間、教員人生のほぼ四分の一ずつ別の職種を経験させていただきました。新しい職種に異動するたびに緊張と不安を感じましたが、職場の先輩や同僚の皆様から温かなご指導やご支援を賜り、それぞれの役職を何とか務めることができました。そして様々な職種の方々との出会いは世間知らずの私にとり大きな宝物となりました。

本校校長室には代表作、長崎平和祈念像の彫刻家、北村西望氏の「牛歩」と題した書が飾られています。教員生活三十七年間、決して平坦な道ではありませんでしたが、牛歩の如く一歩一歩、歩んでくることができました。これも周りの皆様のお陰と深く感謝を申し上げます。



出会いに感謝

美浜中学校長 柴田 利郎



大学を卒業し新採用教員として三方中学校に勤務してから、早定年

の時を迎えました。多くの生徒や保護者・地域の方とのすばらしい出会いのお陰で有意義な日々を過ごすことができました。毎年の新たな出会いのなかで、教員人生が瞬く間に過ぎ去っていったように思います。そして、その終わりは遠く遙かな先だと思っていたのにこの時を迎え、振り返れば思いがけず短いあつという間でした。今となって、人生とはそのようなものであったかと感じます。

十五の春を若人の輪の中でうれし泣きした事、生徒指導に四苦八苦しな夜遅くまで対応したこと、夏の炎天下に大粒の汗を流し懸命に練習する生徒を見守り指導したこと、教え子の日本一の瞬間に立ち会い感動で心が震えたことなどさまざまな場面がよみがえります。教員として未熟な私でしたが、一生懸命に情熱を燃やして生徒と関わってきました。しかし、あつとき別の関わりをしたほうが良かった、あつすれば良かったと思ったりすることも多々あります。

今、定年の時を迎え、教え子たちが同窓会を計画し、私の元に何通かの招待状や連絡が届きます。教え子たちも出会ったころの私以上の齢になり、それぞれの立場や分野で活躍しています。時を超えた人間的なつながりを感じる時、教師の道を選んで良かったと思う瞬間です。その繋がりを今後も大切にして第二の人生を歩めればと思います。そして、教員生活全ての経験と全ての方との出会いが、今の私を育ててくれたのだとつくづく感じるこの頃です。

それぞれの命との出会い

小浜中学校長 昌中 収



二人一人の命を大切にしたいと勤めたいです。

私が、三十八年前の新採用研修で行った、自己紹介の中の一言です。

なぜか、研修会場が笑いで沸いたのを昨日のこのように記憶しています。当の本人は、別に受けを狙って発した言葉では無く、真面目に行った自己紹介にもかかわらず、同席の新採用教員から、「受けたな。」

と、からかわれ、いささか気分を害したので、鮮明に記憶として残っています。

以来、子どもたち一人一人の命を大切にすること、それぞれの命を輝かせようと、我武者羅に勤めてきた三十八年間であつたように思います。

その間、直接担任として、卒業生を送り出すことは三回しかできませんでしたが、小学校の一年生から、中学校の三年生までの担任を務めることができたことは、とても幸せな教員生活であつたと今更ながら喜んでおります。ありがとうございます。

三十八年を振り返って

高浜中学校長 瀧 健二



初任校の青郷小学校をスタートして、あつという間に三十八年が

過ぎてしまいました。特にこの間、高浜中学校での勤務が思い出深いです。昭和五十八年から六年間、平成十年から十年間。そして、平成二十六年から校長として四年間、合わせて二十年間お世話になりました。この学校で成人を迎えたことになりました。

最初の高浜中学校勤務は、平均年齢が二十七歳という非常に若い教員の集団であり、同じような年齢の同僚と日々「若さ」だけで生徒と向き合っていたのを思い出します。その時の生徒たちが、生徒の保護者として現在学校運営に協力してもらっているところであり、本当にありがたいことです。

また、管理職の先生を初めとしたよき先輩方、そしてよき同僚から多くのことを教えていただくとともに、たくさんの方々のことを学ばせていただきました。このようにたくさんの方々のお世話になりました。心より感謝しています。本当にありがとうございます。

みんなたからもの

内浦中学校長 田淵 孝章



昨年度の三名の卒業生が自ら作詞作曲して、とても素敵な歌を残してくれました。現在の私の思いに重なる歌詞なので、そのまま引用させていただきます。

一瞬を開ければ 見えてくる風の流れに 葉が揺られて白波笑い 稲穂は躍るすじ雲走り 心癒やさる時には 未来憂い迷うけれど そんな時は 海を山を見つめている

夢抱き 飛び立つツバメ 春になつたら 帰っておいで 二坂道登れば 見えてくる礎かたき学び舎に おはよの声 響くあの歌 ほほえみあふれ 心癒やさる時には 心重く 悩むけれど 皆の思い 追い風にして 駆け上がる 夢抱き 飛び立つツバメ ここは故郷 帰っておいで 空も土も人も

みんなたからもの… 新採用としての出発校が「卒業」の学校になったのは強い縁があったからだと思えます。多くの方々に支えられて過ごした日々は、みんなたからものです。



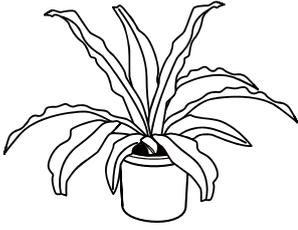
ふりだしに戻って

大飯中学校長 小野 義一



初任の地がここ、大飯中学校でした。そして今、同じ学校で最後の年

を迎えようとしているこの御縁。なんとありがたいことでしょうか。しかも、間に教頭の時代も含んでいるのです。三度目の赴任で、運命なのか不思議なめぐりあわせを感じました。勢いだけがありがたさを感じて、この地域で育てていただいたことを思い返しています。その頃の生徒が今、親世代であり、地域の原動力となつて活躍しています。だからなおさら、ふりだしに戻って初心にかえり、謙虚に精一杯出来るだけのことをやって、恩返しをしようという強い気持ちをも今も持ち続けています。



情熱と愛情を持って

名田庄中学校長 細川 幸夫



新採用として高浜中学校に赴任してから三十七年、母校で定年を迎

えられることを大変うれしく思っています。嶺南教育事務所勤務四年間を含めて、小中学校合わせて六校で務めさせていただきました。その間、特に生徒指導と部活動を中心に、教師は「子どもものごとを一番に考えて、情熱と愛情を持って相談や指導、或いは決断する」とことを学びました。最初の赴任校で連夜家庭訪問や会議を繰り返してチームで頑張ったことが思い出されます。成果が出て生徒が立ち直ってくれたときの喜びが生徒指導の原点となりました。また、若い頃、高浜中学校と小浜第二中学校で男子バスケットボール部の顧問として思う存分部長と向き合せてもらったことも大きかったです。喜びや悔しさで、生徒と一緒に涙を流す感動の時を何度も経験させてもらったことも忘れません。



今までお世話になった多くの素晴らしい先生方や生徒たち、保護者・地域の皆さま、本当にありがとうございました。

県中学校教育研究会だより

県中教研会長 小木 一良 (明倫中)

本研究会では、研究主題「生徒一人一人に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等を育むとともに、主体的に追求・創造する生徒を育てる教育活動の在り方」のもと、各研究部や各ブロック等で実践研究を進めています。

今年度は、福井ブロックが主管をして八月十日に、県立大学と松岡中学校を会場として約五百人の先生方が集い、活発な議論を展開しました。東村県教育長が、各研究会場を視察され熱心に協議に耳を傾けられました。それと併行して、義務教育課企画幹、課長とブロック長との協議会を開催しました。現状をふまえた、有意義な意見交換になりました。

さて、新学習指導要領が告示され、このことへの対応が喫緊の課題となっております。特に「主体的・対話的で深い学び」といった方法による授業改善が急がれます。さらに本県では、大学入試改革に対して高校入試改革が示されました。このように教育が大きく変わろうとしている中で、県中教研では、各市町や各教科でどのような課題があるのかを集約しました。そこで授業改善、ブロック間の連携、学力調査対策、学習指導要領への準備、組織や運営の在り方といった課題があげられました。これらのことに関して、教科や市町中教研

のコミュニケーションを活性化して、全県的に取り組みを推進する体制づくりに努めています。

これらを今年度中に整理・整備をして、県中教研の活動を充実させて、生徒の学力日本一を支える教員の資質の向上を実現させたいと考えています。来年度のご協力をお願いします。

県中学校体育連盟だより

県中体連会長 瀧口正之 (大東中)

昨年度は四巡目の全国中学校体育大会が北信越ブロックで開催され、本県は四つの競技を開催しました。選手はもちろんですが、大会関係者をはじめ多くの皆様の活躍で大きな成果を挙げて終えることができました。今年度はその財産をいかに活かしていくかが問われる年でありました。

地元開催の次の年から本県に実力を試されとも言われます。中体連としては、その成果が試される年だと思っていました。

今年度は全国中学校体育大会が九州ブロックで開催され、バレーボール競技男子の鯖江中と足羽中の二校が三位に、体操競技男子で中央中が三位に入賞しました。ソフトテニス競技男子で成和中が五位、卓球競技女子で武生第二中がベスト八に入る健闘でした。また、全日本ホッケー選手権大会で朝日中学校女子が四年連続優勝、織田中学校男子が三位、朝日中学校男子がベスト八と好成績を収めました。

た。その他個人競技においても多数入賞しました。

九州大会は震災の影響で開催が危ぶまれましたが、その心配を感じさせない立派な大会運営でした。ここに至るまでには、中体連関係者をはじめ多くの方々の努力があったことと思います。中でも、多くの生徒が献身的に運営に協力する姿に心が打たれました。このような陰の力があつたからこそ立派な大会運営ができたのだと思います。献身的な生徒の姿は昨年度の福井大会でも同様に見られました。これは中体連の財産だと思います。

今年度は福井国体が開催されます。昨年の愛媛国体では、目標の十位以内を達成しました。中体連で活躍した選手が少年・青年の部でも活躍してくれていたことは嬉しい限りです。今後、少子高齢化の時代において、国体後の中体連のあるべき姿をよく考えていく事が大きな課題だと思えます。

編集後記



第三百三十五号発行の運びとなりました。お忙しい中、原稿執筆にご協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。そしてご退職される方々の深い思いを胸に日々励んでいきたいと思えます。

本誌にありがとうございました。